旭日中綬章受章祝賀会

大澤理事長 感謝と決意

謝辞を述べる大澤理事長、後方はヤエ夫人

「これからも尽くしたい」

34人一斉に鏡開き

学校法人国士舘・大澤英雄理事長の旭日中綬章受章祝賀会が9月21日、ホテルニューオータニ（千代田区・紀尾井町）の「芙蓉の間」で開催され、各界から約450人が列席した。

祝賀会はまず、本学政経学部卒業生で元NHK静岡放送局スポーツキャスターの劔持（けんもち）志保さんの司会により開式が告げられると、拍手の中、大澤理事長と令夫人・ヤエさんが入場し、50卓それぞれに着席する参会者に深く一礼し登壇した。

続いて間瀬誠吾国士舘理事が発起人を代表してあいさつした後、来賓祝辞では、衛藤征士郎衆議院議員、萩生田光一文部科学大臣、北村滋国家安全保障局長、川淵三郎日本サッカー協会相談役、松浪健四郎全国体育スポーツ系大学協議会会長、西村康稔経済再生・全世代型社会保障改革担当大臣、佐藤東洋士日本私立大学協会副会長の7人が登壇し、それぞれ祝意を述べた。

花束贈呈では、本学シンクロナイズドスイミング部監督の足立夢実さんと国士舘高校3年で柔道部の斉藤立さんが、それぞれ大澤理事長とヤエ夫人に花束を贈った。

引き続き、大澤理事長が謝辞を述べ「このように多くの方々のご列席のもと、すばらしい会を催していただき感謝に堪えない。国士舘に入学以来63年の間、内外からいただいたさまざまなご支援の賜物であり、これからも人と社会のために尽くしていきたい」と感慨無量の面持ちで、一言一言に力を込めながら続く、鏡開きでは、祝い酒5樽を前に総勢34人が登壇＝写真。参会者全員の掛け声とともに木槌によって鏡が開かれた後、田嶋幸三日本サッカー協会会長による乾杯の発声で歓談に入った。

祝電披露、大澤理事長の足跡を振り返る映像上映と進んだ後、特別ゲストとして本学大学院スポーツ・システム研究科修了生で空手「形」の2012年世界選手権優勝の宇佐美里香さんが登壇し、迫真の演武に大きな拍手が送られた。

歓談も終盤となったころ、発起人の脇本三千雄国士舘評議員が謝辞を述べ、最後は矢野博志同評議員による掛け声で列席者全員が声高らかに、大澤理事長の健勝と一層の発展を祈念する万歳三唱をした。

9月14日には、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で勲記・勲章のお披露目式が催された。

堂内に集まった教職員を前に大澤理事長があいさつし、「この受章は私個人の受章ではなく、創立者をはじめ先達者、国士舘同人すべての皆さんとともにいただいたもの。支えてくれた皆さんと喜びを分かち合いたい」と述べ、感謝の意を表した。

引き続き、職員から花束が贈られ、大澤理事長を囲み教職員全員で記念撮影をした。

「皆さんとともにいただいた」

トークイベント「パラリンピアンから学ぶ」

卒業生ら経験紹介

それぞれの経験を話した第2部（左から田口教授、桧山さん、本間さん、山本さん）

多摩市と本学は、トークイベント「パラリンピアンから学ぶ、限界への跳躍」を9月29日、多摩市立関戸公民館で開催し、2008年北京パラリンピックから3大会連続出場し、陸上・男子走り幅跳びで2度の銀メダル、4×100㍍リレーで銅メダルを獲得した山本篤氏が、151人の来場者を前に講演した。

第1部の講演では山本氏が、足を切断してからメダリストになるまでを振り返った。そして東京パラリンピックに向けて「メダルに拘らず自身の最高のパフォーマンスをする」と語り、限界に挑戦することの楽しさと意欲を表した。

第2部は、長年スポーツに傾倒し事故により車いすでの生活となった本学卒業生の桧山和真さんと本間未来さん（体4年）も登壇。田口康之体育学部教授のコーディネートのもと、障害とスポーツについて話を展開した。

桧山さんは「リハビリで動かせる所が増える楽しさはスポーツと同じ感覚」と話し、本間さんは「スポーツは人とのつながりを広げられるもの」とし、新たに取り組むパラスポーツにも話がおよんだ。来場者からは「生き方を学び、活力を得た」「パラリンピックが伝えるメッセージを受け止めながら応援したい」などの感想が聞かれた。

多摩市と連携 五輪イベント

講演会 自転車競技ロードレース応援

田原教授「国際交流」説く

東京オリンピック開幕まで約1年と迫った7月21日、東京2020自転車競技ロードレースのテストイベントに合わせ、多摩市オリンピック・パラリンピック大学連携協議会が主催する「自転車競技ロードレース応援イベント」が多摩大学多摩キャンパスで開催され、本学体育学部の田原淳子教授が講演した。会場には約300人が来場した。

田原教授は「オリンピックを通じての国際理解、国際交流」と題して講演した。まず、近代オリンピックの創立者・クーベルタンを紹介し、オリンピックの誕生や歴史について解説。「重要なことはオリンピックに参加すること。クーベルタンはスポーツを通じてより良い社会の創出を目指した」とオリンピック開催の意図を説いた。また、「オリンピックは社会とともに歩むムーブメント。大会に向け、国際交流など自身で何ができるか考えてほしい」と来場者に呼びかけた。

会場には多摩市の阿部裕行市長も駆けつけ、「来年のオリンピックに向けて機運を高めていきたい」とあいさつした。

当日は、講演会のほか、サイクリングVR体験やボッチャ体験、子ども向け自転車体験なども実施され、本学体育学部の学生が運営に協力した。

多摩市オリンピック・パラリンピック大学連携協議会は、多摩市と多摩市内6大学（大妻女子、恵泉女学園、多摩、国士舘、桜美林、東京医療学院）で構成され、地域の応援体制を整えることなどを目的としている。

本イベントは、平成28年に多摩市と締結した東京オリンピック・パラリンピックに向けた連携協定による事業の一環として開催した。

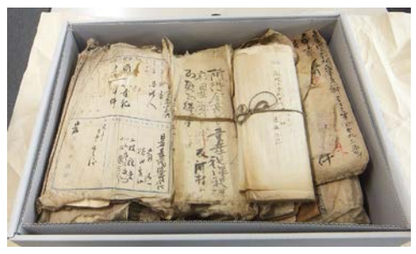
明治～昭和初期の訴訟記録

岸清一の裁判資料発見

明治から昭和にかけての裁判の様子がわかるかもしれない―。

国際オリンピック委員として昭和15年オリンピック東京招致活動を推進するなど、日本の近代スポーツ発展に寄与した弁護士・岸清一。岸の法律事務所が扱った訴訟記録が本学中央図書館で大量に発見された＝写真。

確認されたのは、明治23年から昭和8年までの訴状など約780点。岸の訴訟記録は、『岸清一訴訟記録集』として一部が刊行されているが、未公刊の記録が大部分を占める。当時の裁判記録はほとんど廃棄されており、この資料は非常に重要性・希少性が高く、当時の訴訟手続きの詳細を知る手がかりとなる。


中央図書館が所蔵

福永清貴法学部教授は、「初代法学部長の中村宗雄先生が『岸清一訴訟記録集』の記録整理委員だったことから、本学に所蔵されたのではないか」と推察する。今後は、福永教授が所長を務める法学部付属比較法制研究所が訴訟資料の整理・調査・データベース化を目的に、プロジェクトを起ち上げる予定。

「地滑り抑制」新工法

橋本教授グループが出展

各企業・団体が最新の技術を展示するメンテナンス・レジリエンスTOKYOが7月24日から26日にかけて東京ビッグサイトで開催され、本学理工学部まちづくり学系の橋本隆雄教授（写真）らのグループが国土交通省建設技術研究開発助成制度の支援を受けた「レジェンドパイプ工法」を出展した。

レジェンドパイプ工法は、空洞が特殊なパイプを地中深くに設置することで効率的に地下水を下げ、地滑りや液状化現象を抑制する新工法で、地震が頻発する地域からすでに注目が集まっている。

橋本教授らのグループはアサヒエンジニアリング株式会社などで構成され、出展ブースを訪れる来場者に対し新工法の有用性を説明した。

イノベーション・ジャパン

大高、大橋教授が出展

大高敏男教授

大橋隆弘教授

8月29・30日に、東京ビッグサイトで開催された「イノベーション・ジャパン2019」（主：科学技術振興機構および新エネルギー・産業技術総合開発機構）に理工学部機械工学系の大高敏男教授と大橋隆弘教授がそれぞれ出展した。

展示会で大高教授は「廃熱利用ランキンサイクル用小形密閉式膨張機」、大橋教授は「摩擦攪拌成形（FSF）による異種材の機械的な接合」を出展。各ブースには多くの企業担当者が訪問し、各教授の説明を熱心に聞き入っていた。

この展示会は、大学や公的研究機関、ベンチャー企業などから創出された研究成果の社会還元、技術移転の促進や、実用化に向けた産学連携のマッチング支援を目的に毎年開催されている。

教育後援会から寄付受贈

目録を手にする大澤理事長（中央）。両隣は山田会長（右）と村岡副会長

学校法人国士舘と本学学園祭実行委員会は、国士舘大学教育後援会よりそれぞれ寄付金を受贈した。

10月6日、教育後援会の山田慎吾会長と村岡正明副会長らは、世田谷キャンパス1号館の理事長室応接室を訪れ、大澤英雄理事長に学生の安全と教育環境向上への寄付として5590万円分の目録を手渡した。山田会長は「豊かな教育環境の整備に役立ててほしい」と話し、大澤理事長は「学生に還元できる事業のために活用させていただく」と答えた。

学園祭実行委員会への寄付金贈呈は、10月8日に世田谷キャンパス1号館の小会議室で執り行われ、山田会長から本田隼人さん（法3年、楓門祭実行委員長）に各学園祭への支援として40万円分の目録が贈られた。山田会長は「これからもさまざまな形で支援していきたい」と話し、本田委員長は「103人の委員が一致団結して、盛り上がる学園祭になるよう活用させていただく」と述べた。

せたがやeカレッジ

佐々名誉教授が講演

10月5日、世田谷キャンパス34号館B205教室で、せたがやeカレッジ主催の講演会が開催され、本学名誉教授の佐々博雄氏が「西南戦争と党薩熊本隊」と題して講演した＝写真。会場には世田谷区民らが来場し、講演内容を興味深く聞き入った。

佐々教授は、前半に西南戦争と薩摩方にくみし戦った「党薩隊」と呼ばれる九州各地の諸隊について、写真などの資料を用いて説明した。後半は、西南戦争後の国内政治と熊本の状況を取り上げ、「党薩熊本隊」の生存者らが政治集団を結成し、熊本で教育・産業などの地域振興に努め勢力拡大したことやその政治構想について解説した。

せたがやeカレッジは、世田谷区内6大学（国士舘・駒澤・昭和女子・成城・東京都市・東京農業）と世田谷区教育委員会で構成され、運用するホームページを通して過去の講演会の動画を配信している。本講演会も同ホームページで公開予定となっている。

「内部質保証」教員が研修

本学は9月11日に、世田谷キャンパス多目的ホールで本学教員対象の研修会を開催し、125人が参加した。講師は認証評価機関である公益財団法人日本高等教育評価機構事務局長の伊藤敏弘氏が務め、「高等教育の質保証にかかわる私立大学の在り方」と題し講演した。

伊藤氏は、まず平成30年度から実施の新しい認証評価システムの変更点と同システムで評価した各大学の結果を解説した。その後、新システムの重点項目である内部質保証について「各大学が自主的に自己点検・評価を行い、自己改善することが質の保証へつながる」と重要性を強調した。参加教員らは熱心にメモをとり、理解につなげていた。

認証評価とは、大学などの研究・教育の質の向上と改善のため、国に認証された機関が実施する評価のことで、本研修会は、新たに導入された認証評価システムの理解と教員としての資質向上を目的に実施された。

山代将氏逝去

学校法人国士舘理事の山代将氏（やましろ・まさる）が5月16日に逝去された。享年87歳。葬儀等は近親者のみで既に執り行われた。

山代氏は昭和30年早稲田大学第一法学部卒業。同年早稲田大学に奉職し、理事や評議員などを務めたほか、同43年外国人留学生問題研究会（JAFSA）常務理事、平成3年財団法人国際教育振興会評議員などを歴任。本学には平成10年に奉職。同年に学校法人国士舘理事に着任し、国際交流事業の推進や事務組織改革に尽力した。

屋内全面禁煙に

喫煙ボックス20台を設置

受動喫煙の防止を目的に平成30年7月に健康増進法が一部改正され、本年7月より一部施行として学校・病院・児童福祉施設などと行政機関で屋内での喫煙が禁止になった。本学でも改正法の施行に合わせ、全キャンパスの屋内喫煙室を閉鎖し、屋外各所に喫煙ボックスを配置した。

喫煙ボックスは透明の有機ガラスの1人用で、全キャンパスで計20台を設置した。健康管理室では引き続き、全学生に向けて喫煙による健康障害への注意を呼びかけるとともに、希望者には禁煙相談に応じている。

改正健康増進法の施行範囲はこの後、2020年4月にすべての施設が対象となり、原則屋内禁煙となる。

「遺贈寄付」など制度化

本学は寄付者の便宜を図るため、「遺贈寄付」および「相続財産による寄付」を導入した。近年の寄付方法の多様化に伴う各種問い合わせに応じ、受け入れに関する仕組みを制度化した。

遺贈寄付とは、遺言を残して財産を個人や団体に無償で贈与する方法で、税制上の優遇措置により原則として相続税が非課税となる。各種手続きは、提携する銀行の専門スタッフが総合的にサポートする。

相続財産による寄付は、故人から引き継いだ財産を相続人の意思のもと本学に寄付する方法で、非課税扱いとするには、文部科学省発行の証明書を必要とする。

【お問い合わせ】
募金事務室
03(5451)8207

1917年、「活学」を講ずる教育道場として、吉田松陰の精神を範とした私塾「国士館」が誕生しました。
以来、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」と「思索」を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の涵養を教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を輩出してきました。
創立100周年を迎えた国士舘は、これからも世のため、人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指してまいります。

国士舘の建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

国士舘の教育理念

「国士」養成のため、
四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を
兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと
「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をすること
「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと
「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

国士舘の教育指針

四徳目を備えるには、
不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること
「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること
「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること
「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること